THE CHIKUMAKAIHO MAY. 1970

千曲会報 No. 175

編集発行人 竹田 寛 長野県上田市常入 信州大学繊維学部
発行所 社団法人 千曲会 振替 長野6243, 東京43341
電話上田(2)1215(代表),(2)4465(直通)

犠牲にされている農村民の健康

若月俊一

昨年の10月，私どもは信州の山の中で，第4回国際農村医学会をひらいた。27カ国から500名をこす参加者があったが，その全討議を通じて痛感させられたことは，日本という国は，西欧諸国にくらべて，まったく健康犠牲を苦にしないところである。どうもその点がいちじるしい特徴のように思えた。その健康犠牲の上にこそ，生産増強が重ねられている。今日の，世界第三位の国民総生産の位置をかちえた所以のものは，じつはこの健康犠牲による低賃金の一般国民の生活じゃないかと思われたのであった。国民総生産はそのように高くとも，国民一人当りの所得は，世界で20番目に近いという事実が，その間の事情をはっきり証明しているのではないか。

一般国民の中で，とくに農民はその底辺部分としての生活を暮している。「母ちゃん農業」の母ちゃんの慢性疲労「出稼ぎ農民」の悲惨な災害の頻発，危険な農薬のおびただしい使用，全く安全の保障されてない農業機械の大型化等々——。たしかに農家所得はふえている。年間の一戸当りは120万円をこしたであろう。しかし，これを農家人口一人当りで計算すれば，まだ都市の勤労者のそれに及びはしない。ふえた分は，要するに農業外所得の増加分なのである。その分だけ，出稼ぎや内職がふえた。つまり，それだけ家庭破壊，健康犠牲が行われているのである。——それが，今日の農家の暮らしのいつわざる実態である。

人間の健康より生産が先か

国際会議で討議された農薬の問題では，慢性中毒や食品残留の規制の点で，アメリカやソ連などでは，わが国にくらべてきびしい姿勢をとっていることが強く感じられた。DDTのような殺虫剤でも，これを少量ずつ長く投与していると，母体から胎児にまで影響を及ぼし，ネズミで五代目まで追求した実験の結果によると，発ガン性の傾向が認められるという報告が，フランスのトマチス博士からなされ，ごうごうたる討論の中心となった。これに対して，わが国の学者が，DDTのような生産や消毒に大切な役割を果した農薬に，そのような未確定な結論をいうのは尚早ではないかというような慎重論をとなえたのにくらべ，ソ連やイスラエルをはじめとする諸外国の代表たちは，いや生産も大切だが，健康や生命はそれより以上に重んずべきものだ。このような危険性をもつ薬は，禁止する方向にもっていくのが当然だという積極的な態度をはっきり示した。

これらの人々との討論を通じてとくに感じたことは，欧米の国々の中では，人体に及ぼす公害を論ずる医者の立場というものが，社会的に非常に大きな権威をもっているということであった。「我々が，この薬はこれこれの人体害の危険性がある，と一言いえば，どんな生産に有効な農薬でも，わが国では即使用できなくなる」とこれはソ連のメドビェジ教授の言葉であった。

安全性が軽視されてる

そのことは，農業の機械化による災害や疲労の問題についてもいえた。機械化とともに，それを扱う人間のことが考えられねばならぬという立場から，いわゆる「人間工学」の学問が必要となるわけであるが，これが日本では著しく遅れている。

学会場内の展示場にならんだわが国の動力農機具をみて，外国の学者たちがいちように質問をあびせたことは——機械のベルトに被いがないが，あぶなくはないか，ロータリーに足をかまれないための安全装置がなくて大丈夫なのか，などであった。私は苦しまぎれに，いや，じつは，コストを安くして農民の経済的負担を軽くするようにメーカーが努力したのだと弁解したのであるが…。

日本の小型の手押し式の耕運機が，安くて便利なことは確かだ。だが，その労働のエネルギー代謝率は思いのほかに高いもので，従来の牛馬耕とあまり変りはない。クッションが悪いから振動もひどく，いわゆる「耕運機流産」のもとになる。怪我の危険も多い。

日本独特の「ハウス病」

ビニールハウス内の農業労働に従事する者に多発するいわゆる「ハウス病」症候群についても，外国の学者には理解に苦しむところが多かったようだ。欧米のハウスといえば，一般に「温室栽培を意味し，耐久的なもので大きさも違うし，設備もいろいろとよくできている。温室の中にレールがひかれ荷車が通り，小型耕運機が自由に使われる。換気も自動開閉式にできており，暖房も蒸気をパイプでおくるというしかけであるから，日本のとはわけが違う。なにしろ日本のハウスは建設費が温室栽培の五分の一ですむというので，「小面積から高収益をあげる」という目的にはそうわけだが，そこに，健康犠牲の危険が常につきまとうわけである。ハウス内の高温多湿，また，それらのハウス内外の差が，からだに及ぼすストレス的影響も問題になる。だが，設備の不十分からくる換気の不全ということも大きな害を及ぼすようだ。日本のように危険な農薬をたくさん散布するとこでは，ハウス内の空気中に残留する農薬が，その中で働く農民にとくに大きな害を及ぼすのではないか。

日本の主婦農業のきびしさ

農村医学についての彼我の大きな違いの最も根本的なものに，日本の「母ちゃん農業」の特殊性があった。もちろん，欧米にもそのような型の経営はある。とくに，小農経営が支配的な西ドイツやフランスでは，婦人の農業従事者の，男子に対する比率はそうとう高い。しかしなんといっても，日本の主婦農業は特異的だ。いったい農業における主婦の労働の比率の高低は，その国の農業技術の発達と同時に，その国の生活水準の上下によって強く支配されることは確かのようである。

日本はいわゆる「高度経済成長」の中で，「兼業化」がひどく進んだ。農家の主人が他産業にかり出され，主婦が主幹労働力としての役割を引受けるようになった。問題は，主婦が家事労働や育児の仕事から解放されてないままにそれが行われているという事実であろう。ここに今日のわが国の「主婦農業」の健康障害——「農夫症」の多発の根本原因がある。なぜ今日のわが国に，父ちゃんの「出稼ぎ」，母ちゃんの「内職」がきびしく行われねばならないのか，そのへんは，外国の外者には十分に分らなかったようである。

「半年後家」と「出稼ぎ孤児」

今日，出稼ぎ農家の数は，60万人とも100万人ともいわれている。昔から，出稼ぎがないではなかった。男の酒造，田植，女の製糸，紡績など——。しかし，さいきんの，ことにいわゆる高度成長の時代になってからの，出稼ぎ農民の異常な増加は，まったく目をみはらせるものがある。とくに，東北，山陰，四国，九州などに多い。さいきんは世帯主，つまりお父ちゃんたちのほかに，あとつぎ，つまり兄ちゃんたちの出稼ぎまでが多くなっているのが，特徴といわれる。

かくて，母ちゃんの方は「半年後家」にならざるをえないわけであるが，それはまた，子供に——とくに母ちゃん自身が「内職」に忙しい今日では，「出稼ぎ孤児」にならざるをえないということになる。

とくにさいきん，新聞などに報じられる大きな土木や建築の事故——「土砂くずれ」「落盤」「地下鉄工事事故」などの犠牲者の中に，出稼ぎ農民の名前がのっていることが多いのを知って，ほんとうに私ども農村医学を勉強するものには，頭にきてしまうのである。農民を高度成長の人身御供にしては困るのである。

(筆者：わかつき・としかず，佐久総合病院長，医学博士)

繊維化学第2回小出直人君学位論文紹介

会 田 源 作

静岡大学教授小出直人君は去る昭和44年12月スズ錯体による絹の処理に関する研究なる論文を九州大学に提出し昭和45年3月農学博士の学位を授与された。慶賀にたえない。同君は長野短期大学より静岡大学教育学部に転ぜられ活躍中である。実に真面目な学究で同君の将来のいよいよ発展を切望してやまぬ。同君の論文の概要を以下紹介いたします。

論 文 概 要

本研究はスズ(Ⅳ)錯体のうちヘキサクロルスズ(Ⅳ)酸のアンモニウム塩(A塩)ならびにカリウム塩(K塩)を用いて絹を処理した際の効果およびその間の結合の機構を究明することを目的とした。研究方法としては，繊維織物の物性変化の試験，赤外線吸収スペクトル(IR)，電子スピン共鳴吸収(ESR)による非破壊的分析法および熱分析(TGA)，熱分解ガスクロマトグラフィー(PGC)，とくに熱分解生成物のマススペクトロメトリー(MS)などの破壊的分析法をスズ(Ⅳ)錯体で処理した絹に対して適用した。これらの諸分析からA塩ならびにK塩の絹フイブロインに対する結合の機構について系統的に検討した結果，$SnCl_4$による絹の処理における相異点を明らかにし，スズ(Ⅳ)錯体による処理に関する新しい知見を得た。

(1) まずA塩およびK塩の調製の諸条件を明らかにした。絹の増量率と処理条件の関係のうち，とくに絹の吸湿性の低下，発水性の向上が認められ，従来用いられな

かったK塩がA塩よりも増量その他の処理効果からみてやや有利であった。

(2) TGAからは，絹フイブロインの熱分解は280～340°Cで著しくなる。この反応はアミド結合についての一次反応とみなすときアレニウスの直線関係が成立し，活性化エネルギーが得られた。この熱分解がA塩およびK塩で処理した絹ではその分解速度のピークが未処理の絹にではその分解速度のピークが未処理の絹に比べて高温側にシフトする。これを熱分解抑制効果のあらわれと判断し種々検討の結果，A塩による抑制作用は機構的には，A塩自体から発生するNH_3ガスによることとハロゲン効果によるためであり，一方K塩による抑制作用はA塩とは異なり，アミド基にスズ配位することとハロゲン効果によるためと推定された。

(3) MSの解析の結果，熱分解生成物中からフェノール，ベンゼン，クレゾールなどの芳香族系のアミノ酸残基に由来する成分がアミド基の崩壊により遊離したことが確認された。またA塩およびK塩が付加した場合その検出成分の少ないことから(2)の抑制効果が確認された。さらに絹の一次構造成分の熱分解過程および新たな再結合成分の生成過程が推定された。

教授退官の挨拶

矢木　博

新緑の候同窓の皆様には益々御健祥のことと拝察致し御よろこび申し上げます。さて私本年3月末定年退官いたしましたが，昭和28年6月御世話になりまして以来約17年間幸にも大過なく任務を果し得ましたことは，ひとえに公私にわたり皆様の御厚情の賜物によるものと深く感謝いたしております。

幸い健康に恵まれておりますので専攻しました土壌，肥料や公害に関する調査研究に励み何か御役にたちたい所存でおります。今後主たる住居を東京都世田谷区経堂四丁目17―23におき，また上田市材木町和田いく代方に下宿を致しますので今後とも宜敷く御指導，御厚情を賜りたく願い上げます。拝眉の上御礼言上申し上ぐべきところでありますが，紙上をおかりして衷心から御礼を申し上げます。

平林潔講師理学博士授与さる

繊維工学科平林潔講師は，大阪大学理学部に学位論文〝絹フイブロインの微細構造に関する研究〟を提出中であったが旧冬12月20日栄えある理博博士を授与された。

大学退職のごあいさつ

山口定次郎

このたび信州大学の停年制により，私は3月31日をもって繊維学部を退職いたしました。

顧りみれば，大正14年から45年という長い星霜を，上田蚕糸専門学校から信大繊維学部にいたる今日まで一貫してお世話になってまいりました。

この間に満州事変をはじめ大東亜戦争があり，蚕糸業にも浮沈あり，学制改革による大学への昇格，教養部統合問題，繊維学部の体質改新，蚕糸教育改善，大学紛争など，社会情勢の変化と同様に，めまぐるしい激浪のうちに，教育につき，研究につき，意にまかせぬまま翻弄された時代でした。

私は教育上でも，研究上でも，また学会，業界に対しても，微力にしてついにこれといった業績も貢献もないままに引退することになりました。

にもかかわらず過去において，中国へは縁あって戦時中と文化大革命中2回，出張旅行を許され，千曲会理事長も仰せつかり，日本蚕糸学会では中部支部長に推され今年4月初旬には第40回全大会の責任者として，上田の繊維学部で開催させてもらい，総会の席上で蚕糸学賞を授与されるなどの好機に恵まれました。その上引退してからは，思いもかけず，信州大学から名誉教授の称号をたまわるなど，思えばこれらの栄誉の一つをさえ受けるに足らぬものでありますだけに，このことはおもはゆく身のおきどころもない心境です。それは，私個人の力によるものではなく，公人としての私を，指導，協力，激励して下さった恩師，先輩，同僚，学会，官界，業界など多くの方々のたえざるご鞭撻やご交誼のたまものであり，そのおかげで私は幸福な男であったのだと感謝の念を禁じえません。

「人生に対する謝念とは邂逅の歓喜である」という亀井氏の至言が，今実感として胸に熱くひびいてまいります。

これからしばらくは公人生活の後仕末をし，体は頑健とは申せませんが，別に異常はないようですから，からだをくさらせないように，野人として，母校や社会に対し何かご恩返しをせねばと思っております。何とぞ，今後も相変らずご交誼たまわりたくお願いいたします。

終りに母校や千曲会の健全な発展と，皆さまのご多祥を切にお祈りいたします。

とりあえず会報を通じて会員の皆さんに退職のごあいさつを申し述べ深く感謝の意を表します。

山口自宅　上田市木町　6119電(2)6433

学園あらかると

桜の季節もすぎ，構内の芝生や木の葉の緑も濃さを増して来た。ところどころにつつじが咲き，昼休みには芝生や噴水のまわりに学生達が集まって来る。このところ平穏な毎日である。

昭和44年度卒業式 学部および大学院の卒業式は例年のとおり3月10日に行なわれた。

昭和45年度入学試験 これも例年どおり3月23，24の両日，当学部で行なわれた。各学科別入学志願者および合格者数は次のとおりである。

学科名	志願者	合格者	倍率
繊維農学科	78	30	2.60
繊維工学科	153	50	3.06
繊維工学化学科	198	46	4.30
繊維機械学科	202	50	4.04
繊維化学工学科	133	40	3.33
合 計	764	216	3.54

学部長に白樫侃教授再任 4月1日付で発令された。

信州大学名誉教授に山口定次郎氏 任ぜられ4月1日は発令された。

信州大学学生部長に羽鳥不二夫教授 が発令された。

学科主任等決定 新年度の各学科主任等は次のように改選された。

主任

繊維農学科	松尾 卓見
繊維工学科	久間 秀彦
繊維工業化学科	後藤 春雄
繊維機械学科	高木 春郎
繊維化学工学科	黒岩 茂隆
共通学科	小泉 所
教養部	中村 六男
附属農場長	町田 博
図書分館長	会田 源作
補導委員長	竹田 邦彦

学内人事

3月31日付発令

田中	茂光	助教授に昇任 (繊農)
内藤	光雄	教育学部助手に転任 (繊機)

4月1日付発令

平林	潔	講師に昇任 (繊工)
小林みつ子		助手に昇任 (繊工)
山本	厳	助手に採用 (繊工化)
斉藤	英毅	助手に採用 (繊農)
新保	義一	農学部事務長に昇任 (繊維学部事務長補佐)
北沢	松夫	繊維学部事務長補佐に昇任
井出	隆	信州大学事務局経理部に栄転
宮下	昭三	繊維学部会計係長
木島	昇一	長野工業高等専門学校会計課施設係長

日本蚕糸学会第40回 学術講演会開催される

第40回日本蚕糸学会大会が4月7日～9日に亘って，本学部において開催された。

北は北海道から南は鹿児島に亘って全国から500余名が集り，極めて盛会であった。

即ち研究発表の件数は約250件で例年より35件も多かった。

特別講演として，本誌の第一頁にある「犠牲にされている農村民の健康」について佐久総合病院長の若月俊一先生の講演があり，また「蚕糸業界が現時緊急解決を必要とする問題点」について蚕糸業全般に亘って熱心なシンポジウムが開催され，最後の日には，機械化飼育，地震研究所，川中島の古戦場等の見学も行われて大会の幕をとじた。

田口亮平教授海外出張

田口教授は5月11日からパリで開催される第12回国際蚕糸学会にわが国の代表として出席されることになり，5月7日に羽田空港から出発された。国際蚕糸学会は4年に1度開かれるもので，今年はベルサイユで，微粒子病の権威，ルイ・パスツールの研究完成と西欧各国に養蚕を広めたタンドロの生誕百年を記念して開かれる。

田口教授はわが国から日本蚕糸学会の代表として1人だけ訪仏されるが，国際蚕糸学会の専門部会に出席され，日本の環境条件と桑の生理生態学，特に桑の繁殖生理について発表される。この学会は5月11日から5月16日までで，その後5月21日までは学会後の儀式・招待およびエクスカーションがある。田口教授はこの各種行事に出席された後，スイス，ドイツ，イギリス，などの各国の大学，研究所を視察され6月7日に帰国の予定である。

(柳沢記)

昭和44年度卒業生就職先

繊維農学科 (22名)

浅野	裕三	信大繊維学部大学院
石坂	征洋	寿製薬KK
伊藤	順	伊藤撚糸KK 自営
伊藤	愃	三共生興KK
宇敷	亮道	KK長野電子センター
奥田	稔	栗田工業KK
小田切	裕	長野県養連
川内	伸緒	農林省蚕糸試験場
北野	道雄	高知県蚕業試験場
北村	佳文	タカハシ農事センター
桑名	好治	大阪府公害センター
小柳	敦美	長野県蚕糸公務員
杉山	整	岐阜県蚕糸公務員
武田	尚良	マルコメ味噌KK
玉井	市憲	埼玉県蚕糸公務員
土屋	仁士	鐘淵繊維KK
林	文俊	高校教員
松井	正通	日精樹脂KK
望月	澄子	蚕糸科学研究所
安田	利枝	中外グラビアKK
山口	常男	新潟県蚕糸公務員
山下	徹志	鹿児島県蚕糸公務員

繊維工学科（44名）

芥田　博司　兼松毛工業ＫＫ
綾女　幸夫　日東紡績ＫＫ
伊藤　武平　都築紡績ＫＫ
碓井　憲一　信濃絹絲紡績ＫＫ
内田　吉一　吉忠ＫＫ
大山　芳男　日本フエルトＫＫ
岡田　浩三　亀山製糸ＫＫ
岡田　実　三菱レイヨンＫＫ
岡村　昌寿　オルガン針ＫＫ
小栗　尚之　森下仁丹ＫＫ
尾鷹　寛　栄工業ＫＫ
川上　雅男　旭化成工業ＫＫ
木下　晴夫　川島紡績ＫＫ
木村　修二　平田紡績ＫＫ
工藤　善昭　日精樹脂工業ＫＫ
桑津昇太郎　信大繊維学部大学院
小林　淳人　綾羽紡績ＫＫ
小山　伸悟　川島織物ＫＫ
権田　雅彦　トーネンＫＫ
斉藤　安雄　信大繊維学部大学院
坂元　竜三　信大繊維学部大学院
島田　彰雄　綾羽紡績ＫＫ
清水　求　東洋自動機ＫＫ
杉田　修　トーネンＫＫ
高部　正章　鐘淵紡績ＫＫ
田爪　正和　神戸生糸ＫＫ
田中　正一　信大繊維学部大学院
田中　道男　艶金興業ＫＫ
塚田　益裕　信大繊維学部大学院
寺田　舜　自営
中条　孝夫　トーネンＫＫ
中森　義和　ＫＫ興人
永田　節雄　川島織物ＫＫ
原　伸治　日本製麻ＫＫ
原田　恒雄　川島紡績ＫＫ
平井　敏郎　東洋紡績ＫＫ
藤沢　光彦　興国化学工業ＫＫ
藤谷　正　オルガン針ＫＫ
星野　伸男　ＫＫ福島製作所
八重田　修　長野県繊維工業試験場
矢沢金太郎　松本産業ＫＫ
山本　正宏　藤井毛織ＫＫ
吉川　範文　神戸生糸ＫＫ
渡辺　真弓　グンゼＫＫ

繊維工業化学科（44名）

青江　輝雄　信大繊維学部大学院
荒木　聡司　エッソスタンダード石油ＫＫ
安保　正一　大阪府立大学大学院
池内　寛幸　東洋レーヨンＫＫ
伊藤恵美子　長野県岡谷精密工業試験所
岩谷ふみゑ　河端小諸製作所
太田　清久　山梨大学大学院
沖　泰　信越ポリマーＫＫ
掛川　弥生　東京都繊維工業試験場
岸部　正行　信大繊維学部大学院
衣笠　貞夫　〃　〃
久保　誠六　長野県繊維工業試験場
桜井美喜子　長野県木島平中学校
渋沢　賢治　興人ＫＫ
島田　進　信大繊維学部大学院
清水　和明　〃　〃
白井　文晴　高砂香料ＫＫ
白勢　範　ライオン油脂ＫＫ
鈴木　正稔　橋本毛織ＫＫ
住　好一　日本織布ＫＫ
竹内　竹子　花王石ケンＫＫ
田村　康一　自営
中林　喬　日本合成紙ＫＫ
中山　朋子　プラタク製糸ＫＫ
信吉　修　豊田自動織機ＫＫ
長谷川純子　京都晒染工業ＫＫ
早川　郁男　竹本油脂ＫＫ
馬場　康子　宮入菌剤研究所
伴　あき子　アガツマ精機ＫＫ
平井　利博　信大繊維学部大学院
平松　勝　ニットーボーＫＫ
福田　稔　明成化学工業ＫＫ
藤川　敏博　長瀬産業ＫＫ
松井　義夫　蘇東興業ＫＫ
南出　直樹　信大繊維学部大学院
宮田　利明　日本加工製紙ＫＫ
矢島　照美　イースタン金属工業ＫＫ
湯通堂千文　森下仁丹ＫＫ
吉田　繁　レナウンＫＫ
呼子　嘉博　岡畑興産ＫＫ
渡辺　正敏　ヘキストジャパンＫＫ
桜井　重信　信大繊維学部大学院

繊維機械学科（36名）

新井　哲夫　遠州製作所
一志　定良　浜沢工業
井出　泰生　椿本チェイ製作所
岡本　定吾　ＯＭ製作所
小川　稔　オイレス工業ＫＫ
小根山　稔　旭化成ＫＫ
梶浦　勇　名機製作所
春日　正策　オリンパス光学工業
春日　譲　ナイキ工業ＫＫ
勝又　惣一　東邦レーヨンＫＫ
上水流嘉男　富士通ＫＫ
北城　厚　森川産業
黒岩　平和　信大繊維学部大学院
小泉　伸生　アガツマ精機ＫＫ
小堀　朋衛　神戸製鋼所
坂井　隆文　日本オクルシール工業ＫＫ
佐藤　睦夫　藤倉ゴムＫＫ
柴田　光義　マキタ電機ＫＫ
島田十三男　信大繊維学部大学院
城山　敏　都築製作所
多田　誠　アイシン精機ＫＫ
堤　弘守　三菱樹脂ＫＫ
中沢　哲夫　津上製作所
永井　章夫　敷島紡績ＫＫ
長尾　勲　村田製作所
羽田　孝雄　信大繊維学部大学院
藤岡　良一　藤原製作所
星野　光雄　三井精機工業ＫＫ
松井　勝彦　日本ミネチュアベアリングＫＫ
溝端　恒　黒田精工ＫＫ
森　久芳　石川製作所
横見　和郎　日本トムソンＫＫ
吉越　建男　日本電装
吉村　健二　信大繊維学部大学院
非上　周　自営
田中　登　美蓉事業ＫＫ

繊維化学工学科（32名）

阿部　一雄　東京特殊電線ＫＫ
岩野　一之　倉敷レイヨンＫＫ
内山　昇　昭和電工ＫＫ
太田　知明　東洋化学ＫＫ

岡田 光 宇部日東化成KK
岡田 康男 酒伊繊維
掛端 勝行 オルガノKK
勝俣 春美 大昭和製紙KK
金子 三郎 東京沪器KK
北原 一郎 信大繊維学部大学院
香沢さち子 東京都私立高校
小山 二郎 木村化工機KK
清水 純雄 静岡ガスKK
須坂 行徳 信大繊維学部大学院
春原 秀基 森下仁丹KK
滝本 浩邑 教員
寺田惣一郎 KK仁丹テルモ
富田 友一 紺松染工KK
中川 一貞 日本重化学工業KK
永井 光生 タキロン化学KK
西沢 憲夫 浜野繊維工業KK
西沢 秀雄 信大繊維学部大学院
野畠 厚雄 高分子化学工業KK
原 幹夫 信大繊維学部大学院
藤井 明彦 〃 〃
堀内 剛 帝人KK
前島 芳弘 スガイ化学工業KK
松浦喜多男 兼松トップメーキングKK
松倉 実 宮田工業KK
丸山 恵子 日立製作所（小諸工場）
宮本 昇 興国化学工業KK
森岡 幹雄 呉羽センイKK

昭和44年度信州大学大学院修士課程卒業生就職先（17名）

繊維農学専攻

丸山 泰男 愛知県公害センター
清水 治雄 群馬県蚕業試験場

繊維工業化学専攻

青山 明子 日本オイルシール化学工業KK
落合 武次 富士写真フイルムKK
小笠原健二 長野県須坂高等学校
川村 長蔵 日本エクスランKK
宝永 嘉男 ユニチカKK
広橋 満 フナイ薬品工業KK
中曾根弓夫 花王石ケンKK
山本 静護 東北大学大学院
村田 一之 成渓大学理工学部助手

繊維機械学専攻

藤本 功 帝人KK
李 成一 東京大学宇宙航空研究所
武田 秀助 東洋エンジアリングKK
藤井 直 日本エクスラン工業
井上 統允 豊田自動織機KK

繊維化学工学専攻

竹島 幹夫 日本電信電話公社

昭和45年度入学試験合格者

繊維農学科（29名）

荒井 和人 長野屋代高校
入江啓一郎 千葉長生 〃
太田 裕万 京都城南 〃
大塚 孝一 長野上田 〃
大畑 守男 兵庫滝川 〃
川上 敏行 長野松本県ケ丘 〃
楠木 和之 兵庫姫路 〃
小林 亨 長野岩村田 〃
篠原 洋治 〃 野沢北 〃
高沢 茂喜 〃 飯山北 〃
津高 洋一 神奈川 希望ケ丘 〃
西江 敬一 岡山 笠岡 〃
仁科祥次郎 長野 野沢北 〃
畑田 武男 〃 長野吉田 〃
浜田 隆 兵庫 鳴尾 〃
平井 直一 長野上田 〃
平林 公人 〃 屋代 〃
藤岡 繁実 大阪 阪南 〃
福田 末隆 福井 武生 〃
穂刈 敏寛 長野屋代 〃
松井 陸太 富山 富山 〃
真野 祥和 岡山 岡山朝日 〃
水内 直人 〃 岡山操山 〃
水野 史子 埼玉 熊谷女子 〃
三船 義博 大阪 三国丘 〃
山内 光晴 兵庫 姫路東 〃
山崎 芳江 長野 上田染谷丘 〃
吉井 信博 兵庫 西宮東 〃
吉沢 和寿 長野 野沢北 〃

繊維工学科（45名）

浅井 和彦 愛知 西尾高校
阿部 良夫 〃 豊田西 〃
石倉 信作 大阪 東淀川 〃
伊藤富士夫 愛知 春日井 〃
内田 修 長野 長野 〃
梅田 和生 大阪 清水谷 〃
江幡 敏夫 〃 市岡 〃
加藤 隆久 〃 今宮 〃
亀井 勉 愛知 半田 〃
川久保八郎 〃 刈谷 〃
倉内 荘氏 大阪 東住吉 〃
光野 重樹 兵庫 西宮東 〃
小林 政巳 三重 津 〃
斎藤 栄美 長野 上田 〃
崎久保 守 兵庫 葺合 〃
佐久間恭乃 千葉 木更津 〃
佐藤 孝 長野 上田 〃
清水 正泰 〃 長野工業 〃
白川 誠 〃 上田 〃
杉田 隆 愛知 国府 〃
高橋 正光 東京 北 〃
高村 博文 長野 野沢北 〃
武村 治 奈良 畝傍 〃
田代 優司 長野 長野 〃
近松 正雄 岐阜 関 〃
塚越 憲二 長野 長野 〃
豊岡 幸祐 大分 竹田 〃
長島 衛 長野 中野実業 〃
西沢 茂夫 大阪 和泉 〃
棚島 雅博 群馬 高崎 〃
原田 秀男 長野 長野 〃
平野 京二 岐阜 加茂 〃
広居 久司 山形 米沢興譲館 〃
福田 保 石川 金沢桜丘 〃
松井 滋樹 群馬 桐生 〃
松岡 茂樹 長野 長野吉田 〃
松本 明 富山 砺波 〃
宮坂 初男 長野 上田 〃
森下 学 福井 若狭 〃
矢倉 史朗 大阪 住吉 〃
山川 真砂 岐阜 大垣北 〃
山辺 和夫 長野 上田 〃
柳沢 昭男 〃 上田 〃
吉松 和 兵庫 西宮 〃

依田 守夫 長野 上田高校

繊維工業化学科（40名）

阿部 亮一 岩手 一関第一 〃
諫山 和敏 愛知 刈谷 〃
伊勢田裕子 鳥取 米子東 〃
上松 清 大阪 住吉 〃
梅田 洋一 愛知 時習館 〃
種田 育男 岐阜 中津 〃
小川 博 京都 山城 〃
岡部 光男 群馬 富岡 〃
勝山 英久 神奈川 川和 〃
角丸 悦二 大阪 関西大倉 〃
黒部 利之 富山 砺波 〃
近藤 健一 兵庫 星陵 〃
清水 博之 福井 若狭 〃
清水 本武 長野 上田千曲 〃
上甲 恭平 大阪 夕陽ヶ丘 〃
白井 政晴 三重 四日市 〃
城下 洋子 岐阜 斐太 〃
鈴木一比好 神奈川 希望ヶ丘 〃
左右木正巳 愛知 刈谷 〃
高間 道裕 岐阜 岐阜北 〃
武井 直行 長野 松本県ヶ丘 〃
田中 忠志 〃 松本県ヶ丘 〃
田村 登正 大阪 大手前 〃
田辺 陽一 岡山 玉島 〃
寺部 重利 愛知 国府 〃
伝田 淑子 長野 長野西 〃
中島 正人 〃 上田 〃
長岡 創 〃 上田千曲 〃
長峰 秋雄 〃 長野吉田 〃
仁尾 豊 兵庫 西脇工業 〃
西口 純 〃 尼崎 〃
野口 賢治 東京 墨田川 〃
畑 弘文 長野 上田 〃
日野 弘 〃 伊那北 〃
古川 武新 潟 糸魚川 〃
前田 洋一 三重 四日市 〃
松山 正代 広島 福山誠之館 〃
森 忠司 大阪 東住吉 〃
山本 耕司 〃 三国丘 〃
山本 隆夫 山口 宇部 〃

繊維機械学科（46名）

池田 和美 長野 飯田 〃
市川 祥一 〃 上田高校
伊藤 一三 愛知 国府 〃
伊藤 雄二 〃 名古屋北 〃
井ノ口昭雄 兵庫 姫路西 〃
今井 了 香川 坂出 〃
植木 一夫 鳥取 八頭 〃
上野 住夫 長野 上田 〃
大槻 章 〃 諏訪清陵 〃
笠井 純夫 〃 松本県ヶ丘 〃
鎌田 茂 大阪 東住吉 〃
北原 輝義 長野 松本県ヶ丘 〃
小池 力 〃 諏訪清陵 〃
幸積 嗣 兵庫 鳴尾 〃
小須田豊明 長野 野沢北 〃
小林 仁 〃 屋代 〃
近藤 義盛 〃 〃 〃
酒居 博 滋賀 虎姫 〃
新保 公一 石川 金沢錦丘 〃
杉浦 弘忠 愛知 半田 〃
杉岡 英雄 岐阜 郡上 〃
高宮三四郎 愛知 千種 〃
田中 章 埼玉 浦和 〃
辻 竜一郎 長野 松本県ヶ丘 〃
富田 勝良 〃 伊那北 〃
鳥居 山美 愛知 刈谷 〃
駸斗 伸吉 大阪 今宮 〃
畑中 博 〃 桃山学院 〃
深井 英紀 長野 上田 〃
福井 真吾 兵庫 姫路東 〃
藤井 隆 大阪 八尾 〃
降旗 久男 長野 松本県ヶ丘 〃
朴木 秀樹 兵庫 三田学園 〃
穂苅 保美 長野 須坂 〃
堀内 健二 〃 屋代 〃
牧野 良司 愛知 刈谷 〃
町田 光基 岡山 津山工業 〃
松本 行雄 岐阜 郡上 〃
武捨 貴昭 長野 上田 〃
室賀 孝一 〃 〃 〃
山口 茂三 重 宇治山田 〃
山田 敏治 長野 上田 〃
湯沢 公明 〃 赤穂 〃
横山 俊輔 兵庫 西脇 〃
米田 和彦 鳥取 鳥取西 〃
若林 真 長野 上田 〃

繊維化学工学科（36名）

秋葉 育郎 京都 桂 高校
芦田 良一 長野 上田 〃
甘利 義夫 〃 野沢北 〃
池田 幸夫 大阪 金蘭千里 〃
稲熊 康調 愛知 桜台 〃
岩本 辰雄 鳥取 八頭 〃
大垣 敏夫 大阪 山本 〃
岡沢 直 長野 須坂 〃
奥村富美夫 岐阜 加納 〃
小野 涼子 大阪 住吉 〃
春日 俊一 長野 上田 〃
河野 俊昭 長崎 長崎南 〃
熊井 巻文 長野 岡谷工業 〃
栗本 恵司 奈良 五条 〃
児玉 茂樹 大阪 箕面 〃
塩川 昌幸 福岡 八幡 〃
島田 徹 大阪 生野 〃
清水 啓一 長野 長野工業 〃
下山 泰彦 愛知 向陽 〃
春原 正幸 長野 長野 〃
関 隆夫 静岡 韮山 〃
高石 泰宏 兵庫 西宮東 〃
高橋 俊夫 東京 非常 〃
高橋 泰信 大阪 泉陽 〃
津村 弘次 和歌山 日高 〃
成沢 英之 長野 上田 〃
西 豊充 大阪 布施 〃
藤原喜久治 〃 茨木 〃
別府 繁樹 長野 岩村田 〃
松田 泰介 三重 津 〃
水野 章 岐阜 瑞浪 〃
山本千代重 愛媛 宇和島東 〃
湯田 吉春 長野 須坂 〃
横山 雅夫 岡山 玉野 〃
吉越 茂樹 長野 吉田 〃
和仁 利之 岡山 津山 〃

昭和45年度信州大学大学院修士課程入学者　(25名)

繊維農学専攻

浅野 裕三 信州大学繊維学部
原 厚 信州大学教育学部

繊維工学専攻

田中 正一 信州大学繊維学部
坂元 竜三 〃
桑津昇太郎 〃
斉藤 安雄 〃
塚田 益裕 〃

繊維工業化学専攻

青江 輝雄 信州大学繊維学部
岸部 正行 〃
衣笠 貞夫 〃
桜井 重信 〃
島田 進 〃
清水 和明 〃
平井 利博 〃
藤森 静芳 信州大学理学部
南出 直樹 信州大学繊維学部

繊維機械学専攻

吉村 健二 信州大学繊維学部
島田十三男 〃
羽田 孝雄 〃
黒岩 平和 〃

繊維化学工学専攻

新井 敬一 日本大学工学部
北原 一郎 信州大学繊維学部
須坂 行徳 〃
西沢 秀雄 〃
原 幹夫 〃

さろん

新宿御苑の観桜会に列して

蒲生俊興

4月5日朝の速達で佐藤総理大臣からの御招待を受けて13日は午前9時半から11時迄の受付けで，私はその前夜巣鴨の次男の許に宿り，町角からタクシーをひろって荊妻と二人で新宿一丁目で降り10時半頃木戸御門から入苑した，門内には受付があり数人の係員に招待券と番号札を渡し，庭内事務所前の広場に備え付けられた大天幕内の園友会場に案内された。会場では楽隊の演奏する賑やかな音律に混和して既に千数百人にも及ぶ多数の招待者が思い思いのテーブルを渡り歩き，自由自在に色々な御馳走と飲みものの饗応を受け，その広場の一端に佐藤総理夫妻と5，6名の閣僚夫妻が居られ，千余名の招待者が，二列に並んで順次各大臣に挨拶に向うという指向だったので，私共もこの列に加わり，2，30分後，順番が来て，佐藤総理以下の各大臣に夫々握手と御礼の言葉を終って広い苑内を散歩した。五十余種に及ぶという各種の桜も染井吉野桜のみが，満開という程度で花見にはやや時期尚早の感がした。当日は晴天だったが風が強く少々閉口した。当日の招待者は我々叙勲者ばかりでなく，各国大公使館員なども交り，黒白，何十という人種の交錯であった。我々が想像していた宮中に於ける園友会への御招待とは凡そ程遠い性質のものであったが，或は生涯に一度のものかと存じ出席してこの光栄に浴して帰った次第である。

還暦を祝って
田口研究室出身者の集まり

去る1月4日午後4時半より，上田の「ささや新館」において，田口亮平先生ご夫妻をお招きし，田口先生に直接ご指導をいただいた門下生30余名が集まり，先生の還暦の祝賀会を開催した。

先生が松山農科大学より信州大学繊維学部にご転任されたのは昭和25年である。本年ははちょうどご転任20周年になる。この20年の間に田口研究室を巣立って行った門下生は50余名に達した。今回の祝賀会の出席者は北は盛岡から，南は鹿児島，宮崎から，また豪雪地帯の北陸からと，全国から集まって来た。どうしても都合が悪く出席できないと通知して来た門下生を含めると47名であった。これは一重に先生のご人徳のいたすところである。

祝賀会は司会の開会の辞によって始められ，先生のご挨拶，門下生代表の祝辞があった後，宴会に入った。田口研究室出身者といっても古参は今や40才に近く，新参はこの4月卒業する20

特許・実用新案・意匠・商標
出願・訴訟・鑑定
浜特許事務所
東京都港区新橋1の15の4
堤第一ビル4階
東京（591）0764・0765
弁理士 浜 香三
弁護士 中 猪之助
千曲会員 福島鋼治郎
千曲会員 長谷 実

信大教科書
自然科学書
工学書協会特約店
株式会社 西沢書店
上田原町TEL②0024

才を過ぎたばかりといった若者であるので，まず自己紹介をした。皆が田口研究室で過した1年間を懐しく思い出し，つい昨日のことのように話しながら，この1年間の先生との交流が，大なり小なり現在の自分を支え，生活信条になっていることを語っていた。

宴が進むにつれて，皆が先生と奥様の周囲に集まり，往時を偲び，今を見てもらった。先生は温顔をほころばせ慈父のごとく，うなずき聞いておられた。

時間はたちまち過ぎ去った。先生ご夫妻にはいつまでもご壮健で，我々門下生の心のよりどころとしてご活躍下さるように祈って万才を三唱した。間もなく先生ご夫妻は退出されたが，余韻を惜しみ，肩を寄せ合って語り合っていた門下生は「ささや」の従業員に「閉店です」と言われたのを恨めし気に睨みつけて，この次の田口研究室出身者の集まりはさらに盛大にしようと再会を誓って握手し，三々五々上田の凍つく町の中に消えて行った。

尚この集まりの出席者は下記の方々である。（敬称略）

田口先生，奥様，茨木宣雄（蚕38），西村善次（蚕38），大平　暁（繊学2）北島格次（繊学2），小松茂男（繊学5），宮沢喜久男（繊学5），土屋　競（繊学5），堀内　享（繊学5），直井利雄（繊学6），西尾泰徳（繊6），香山　章（繊学7），手塚　茂（繊学7）菅沼牲一（繊学8），奥田守孝（繊学9），児玉彰彦（繊学11），勝野裕夫（繊学12），小林重明（繊学12），杉島　薫（繊学12），山本満寿夫（繊学13），黒沢健一（繊学14），南部　巍（繊学14），久野邦博（繊学16），箱山　晋（繊学16），矢島正晴（繊学17），伊藤　愃（繊学18），土屋仁士（繊学18），柳沢幸男（農4），飯島ちよ（職員）。

（農4，柳沢記）

観光事業に進出する緑間武氏

すでに会報162号と167号で紹介しておいた沖縄の青年実業家，緑間武氏が今度沖縄の観光事業に進出し，すでに資金の調達，基礎調査を終り，建物の起工式も昨年末に済んだ。私は当時同窓生中の異色の青年実業家として，母校創立の恩人針塚先生の精神を生かしている人として同窓に紹介したのである。月移り，年変わり人の心まで変わって来た昨今，この精神を処世の軸として活躍する緑間氏の姿を想うと針塚精神が如何に貴く，如何に世情が，変化しようとも，この精神の底に流れるものは未来，永劫に真理であることを痛感しているのである。

さて緑間氏が今回計画している事業の概要を同窓諸氏に紹介し，同窓生あげて彼の事業に協力していただきたいと懇願するものである。観光ホテルの建設地は那覇市のうち最高の風光明媚の地，首里山川の高台で，那覇市を一眸のもとに俯瞰する景勝の地である。建物は地下6階，地上11階，屋上2階で総予算18億，客の収容人員600名，沖縄最大の規模である。設備，内装もデラックスで豪華さが計画されている。その完成は明年（1971年）秋頃の予定の由である。これからの成長産業の一つとして観光事業は最たるものの一つである。氏の慧眼と積極的な意欲には唯々敬意を表するばかりである。氏は目下，沖縄と本土の間を頻繁に往来しており着々と完成を期しているのである。

吾々千曲会員は氏の壮図の成功を祈念しようではありませんか，そしてやがて完成の暁には格別の御援助をお願いする次第である。やがて完成の暁には規模，構想の詳細にわたって報じたいと思っている。

氏よ，いよいよ御自愛なされ，御活躍されますよう衷心から御祈りを致します。（45．3．18，荻原清治）

山口研究室出身者による先生を送る集い

春の訪れの遅い信濃路にも桜花が咲く季節となり，本学部へ招聘した日本蚕糸学会第40回学術講演会の行事も盛会裡に終了してほっと一息入れた4月18日午後5時より，新たに上田市となった別所温泉「上松屋」で，山口定次郎先生を囲み，直接ご指導いただいた門下生30余名と研究室に関係のあった方々が，先生の日本蚕糸学会賞受賞と信州大学ご退官の祝賀および送る集いの会を泊りがけで催した。

先生は大正14年に上田蚕糸専門学校養蚕科第12回生としてご卒業になり，爾来45年の永い間一貫して母校に勤務され，この間山口研究室で直接ご指導いただいた門下生は60余名に達した。今回の先生を送る集いに参加した方々は遠くは栃木，静岡から，また新潟からは自家用車で乗りつける方もあって初め予定したよりは多くの方々が参加下さり，広い上松屋も別館は貸切り，一部は本館に食出す有様で，これも一重に先生の人徳のいたすところとこの会を計画した幹事として喜んだ次第である。なお，会には都合で参加できないからと会費だけをわざわざ寄附下された方もあった。

会は定刻を少しまわってから始められ，先生から今回の受賞も，また永い

勤めを無事終了できたのも皆様のお陰であると敬虔なクリスチャンらしいご挨拶があり，門下生代表から先生に送る祝辞と離別の言葉があって後，宴会に入った。席は先生を中心に古参の2－3の方を正座に，卒業順に居並び，先ず自己紹介をした。学生生活において研究室での卒論の一年間は想い出があり，しかも柔和温容の先生のお人柄は今なおわれわれの心の支えとなっていると話し合っていた。酔いがまわるにつれて個々の本領を発揮し，普通の職場に置くには惜しいほどの名演技も出，また山口先生はつね以上に温顔をほころばせ門下生を従がえての得意の「花もあらしも…」は会を盛り立てた。途中本日の会にわざわざ先生のお嬢さんが挨拶に来られた。一方，今日の記念にと団楽の一駒を撮りつづける方もあり，また旅館の主が同窓であり，山口先生の奥様，新潟から参加いただいた倉沢先生の生家でもあり，宿六の申し出が三人居てそんな気安さから和気藹々のうちに会は進行した。

時間はたちまちに過ぎ10時をまわったので，各世代の5人の旧応援団長にご足労願い，先生が現職を退かれても益々ご健勝で，われわれ門下生の拠どころとしてお過し下さるようお祈りして団長踊りを皆の手拍子で行ない，つづいて万才を三唱して後各部屋へ退散した。その後も余韻がつづき寝についたのは12時をまわっていた。翌朝は一同で朝食を共にし，屋上で記念撮影をして山口研究室出身者による再会を約して10時頃散会した。

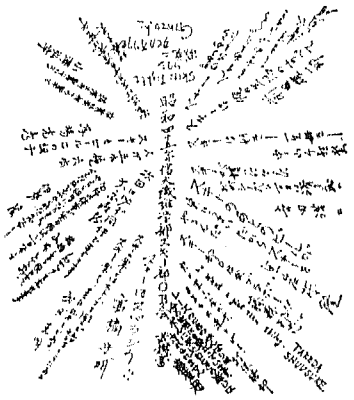
なお，この集まりに参加された方々は下記の通りである。（敬称略）

山口先生，倉沢文夫（蚕19），窪田 巌（蚕19），秋山利夫（蚕24），竹田 寛（蚕25），長島栄一，倉沢秀一（蚕30）清水 猛（蚕31），岩下嘉光（蚕37），滝沢甚吾（学繊），牧野文雄（同1），滝沢寛三（同3），降旗剛寛（同3），宮川英一（同3），山辺好徳（同5），宮崎久雄（同5），武井隆三（同5），鈴木 昭（同5），丸山毅夫（同6），木内玄詔（同6），清水隆雄（同7），手塚望生（同8），中村二郎（同11），吾妻 直（同13），柳沢幹夫（同13），岩野汎男（同14），小林公幸（同15），峯村健一（同15），清水 治（同16），塩川象光（同16），横山好範（同17），小柳敦美（同18）。（学繊8，小林記）

スキー部OB会便り

昭和45年度スキー部ＯＢ会の総会は2月8日～9日にかけて菅平高原，正美屋旅館で開かれた。

8日午後7時より，菅平ヒュッテ管理人小宮山茂樹先生，スキー部顧問黒岩先生に御臨席いただき，伊勢隆会長の挨拶に始まり，会員の近況報告を次々に行った。話題はやはりスキー技術や，新旧スキー部員気質について集中した。今回は残念な事に現役スキー部員は期末試験をひかえた為か，出席がなかったが，来年よりＯＢ対現役の練習試合をするむね決議した。



一昨年よりスキーＯＢ会からスキー部に対して三賞（殊勲，敢闘，努力）のトロフィーと楯をスキー部の推挙により会長が部の総会に方で授与している。

2月9日はＯＢ会出席者で裏太郎にて滑りまくり，ＯＢといえども衆目を集める程の素晴しさで午後無事散会した。

出席者氏名

黒岩先生，小宮山茂樹先生，藤原 超高橋史明，武田克明，大宮昭博，山本俊雄，伊勢 隆，馬場克彦，小沢弘幸加藤文夫，中塚吟造，清水貞雄，前田雄一郎，中山千佐登，吉田浩二，藤森邦忠，打保勝郎，武田秀助。

（武田記）

海外に飛躍する

北野建設株式会社

取締役社長 北 野 次 登

長野市県町524 電代(2)1201
東京都中央区銀座1の5北野ビル 電大代(562)2331
大阪市北区堂島浜通り1の25新大阪ビル 電代(344)2366
松本・高田・ジャカルタ

煮繭機の

井口工業株式会社

本社工場 長野県岡谷市銀座2丁目12―18
電話 岡谷 (02662) ③3288 (代表)
第2工場 長野県岡谷市加茂町4丁目3―5
電話 岡谷 (02662) ②4668

支会だより

竜川支会総会開催の記

野口新太郎先生を飯田女子短大に御迎えした歓迎会以来久しく開催されていなかった竜川支会総会を漸く寒気もゆるんだ2月21日飯田市富士千に於て午後4時から開催をした。本部からは学部長選挙の興奮も収まらない翌日ではあったが土屋幾雄先生を急遽御願いして光彩を添えていただいた。

市瀬支会長の挨拶に始まり，土屋理事から母校並に千曲会の現況の報告があり，学部内の農工関係の複雑な問題等に亘って今後の学部，千曲会の重大なあり方について，認識を新たにした次第である。

次いで事務局より会計報告に併せ会費徴集方法について問題を投げかけ論議された。支会会員の分布が広範に亘っていること等隘路はあるが，地理的条件からも上伊那地区を分離して精々実効のあがる方法により本部活動資金の調達に心がけることになった。この間野口先生より建学の理念を説かれ同窓の大先輩として烈々たる気魄を以ていろいろ御意見を披瀝され，参集者に深い感銘を与えられた。

別席に於て野趣豊から殿様御猟料理を囲んで銘酒喜久水を汲み交し宴酣ともなれば飯伊アヤ，マジシャン，メンバーの代表者神崎副支会長の妙技に全員魅了され胸襟を開いて大いに語り，且つ飲み次回を約して午後8時散会した。

当日の出席者次の通り。（順不同）野口新太郎，羽生英尚，神崎聖徳，市瀬武寿，松下紀男，宮沢芳雄，堀内隆吉，清水悦雄，大原不二人，下平文穂　堀　新郎，清水一郎，筒井忠夫，城下治雄，木下　敦，吉川藤男，吉川稔穂　林　岩一，柳原清志，市瀬有三，（本部）土屋幾雄理事。　（筒井記）

愛媛千曲会の記

今年の寒波は，なかなか強く南国四国にもおよび，伊予，高知境に連らなる四国山脈の最高峯，石槌山，天羽岳も相当の山麓まで真白くなり，寒気もきびしかった。松山―別府間，八幡浜―別府間航路も欠航していた。八幡浜の酒六工場での所要を済ませ会場の宝荘についたのは14日の正午であった。松山駅には卒業以来始めて会う宮崎忠祥氏を始め，沢山の人が出迎えてくれた。会場にはすでに出席予定者は益淵氏を除いて全員集まっていた。益淵氏の欠席は労働組合との徹夜交渉のためとのこと，所長ともなればご苦労なものである。氏は松山統計事務所長である。日曜のため出席者は少なかった。

この会合は宮崎忠祥氏の発案によるもので，物心両面において同氏の多大のご好意によるものである。会場には沢山のご馳走があり，どこの会でも見られないような豪華なものであった。後で聞くところによると，これは殆んど忠祥氏の奥様の手作りのものとか，どうか当日御出席された各位にはこのご好意に感謝して下さい。

さて会は宝荘会長，清治氏のご挨拶に始まり，ついで皆様の要望により私が学部の現状や，将来の行きかたなどについて説明をした。この席で始めてわかったのであるが，出席者の半数が千曲会報を入手しておらず，まして現職を退いている人には殆んど届いていないので本会の事情や母校の推移など全く知らなかった。私の話で始めて母校の事情を知り驚いていた。清治氏は会合のある毎に会場を提供し，出席されて処世の道などを話してくれ，誠に感銘にたえない。始めて出席された会員には三好氏，丸山氏，上田氏，中島氏があり，この人達はロ々に会報の未着を歎じていた。係りの方にはなるべく住所の調査を正確にし，会報の送付をしてもらいたいものだ。会報が届かないから会費のことなど全く知らないのだ。宴が熟すると共に学生時代の想い出，移り行く母校の姿などが話題になり，更に今後信州大学の一員として如何に推移していったらよいかと言うことであった。話の中に清治氏の自宅の米軍への接収されるエピソードがあった。彼等のやり方はすべて合理的で高い山の上から家並を見て瓦の光っている家をチェックした。それは瓦が光っているのは良質のものを使っている証で立派な家であると判断をするのだ接収された家のものが呼ばれた宴会の席でコーヒーなどを持って来て横柄な態度で応対するので，私は義憤を感じ「日本人を馬鹿にするな，戦に負けたのは国であって，吾々ではない，人と人とは対等であるから対等につきあおう」と言ったところ彼等は平あやまりにあやまってその後はいろいろな品物を持参し対等につきあったそうだ。

また母校の改革問題にも話が出て清治氏（宮崎忠祥氏は清治氏のご令弟）は次のような意見を述べられた。今後母校は工科系にもっていくことが一般的に考えて見た大方針であろう。明治維新の際，廃刀令が出た時，武士達は断固として大反対をしたが政府は万難を排して実行したようなものだ。70年

代は驚くべき産業革命が起り，第一次産業は漸次後退をするだろう。私は養蚕科の出身だが母校の発展のためならば郷愁は捨てなければならないと結んだ。そのほか宴会中にはいろいろな処世の話も出たが後日また執筆したい。終りに母校および千曲会の発展，隆昌を祈り，また会おうと語りつつ散会した。 (44.12.14，荻原清治記)

当日の出席者次のとおり（敬称略）宮崎清治（蚕8），三好弥市（糸8），丸山利十（蚕12），上田岩男（糸14），工藤見吉（蚕17），宮崎忠祥（糸18），中島熊保（糸19），薬師神弁太郎（糸22）中村孟夫（糸38），須沢保夫（学糸2），関 弥三（学糸4），井沢源一郎（忠祥氏秘書），荻原清治（糸12）。

三重支会開催報告

大変御無沙汰に打過ぎております。首題の件去る44年12月7日四日市々千歳町料亭浜松茂に於て開催しました。支会員85名中18名の参加で幹事の奮起にもかかわらず又淋しい三重支会となってしまいました。主催者として，誠に残念の極みでありますが，今後の発展を期して行きたいと思い，今回は特に三重支会発展の為下記事項出席者全員で熱心に討議して貰いました。

記

1. 支会規約作製の件
1. 支会名簿作製の件
1. 支会長任期と改選の件
1. 定期支会開催と期日の件
1. 母校との連繋強化の件

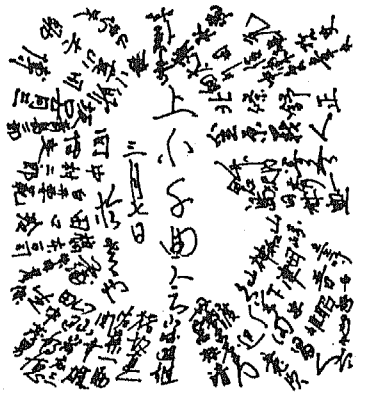
討議結果は今後現支会長と地区幹事に於て起案し次期支会に提案することとなりました。

尚当日の出席者及び千曲会費別紙の如く現金を添え送附致しますので御査収下さい。大変報告がおくれました事をお詫び申上げます。年末の衆院選，病気，母死亡等雑事が重なりましたので御了承下さるようお願申上げます。

(砂田正義記)

上小支会総会記

信濃路の春まだ浅い3月7日，午後1時から上小支会総会は上田市ささやで開催された。例年2月に開くが今年は都合で今日開催となった。3月は会社，学校等多忙であるから2月が良いとの声もあったが寄せ書のとおり58名の会員が集まり盛会であった。地元で時々顔を合せている人が多いので感激的シーンというものはないが，やはり元気で活躍していることで笑顔で会えることは楽しい。総会は倉沢秀一副支会長の司会で先ず笠原義人支会長の挨拶があり，つづいて会務ならびに会計報告は竹内彦保幹事長から説明があり拍手によって承認された。次に本会ならびに母校現況報告について関博夫理事，北条舒正副理事長から本会総会後の連絡事項について，学部の現況について報告があった。笠原支会長から学部（学科）の教育方針について質問があった。母袋忠右衛門氏から長野県議会の状況についてお話があった。蒲生俊興先生から蚕糸教育の改善問題の意見発表された。次に支会の運営については会費の納入率の向上に力を入れ昨年は上小支会名簿を作り23地区に分け地区毎に会費徴収の責任者によってお願いした結果上小支会として画期的な85%を越ゆる上成績を収めたことを竹内彦保幹事長から説明があった。このよい傾向をつづけて行くように強い希望があった。かくて議案は終り，今日の特別講演として呼びものであった久保田昌人氏の健康増進と老化予防について講演，実演があった。今日の皆様は私よりお若い人で私は73才で年令的には老人組だが私の血色皮膚を見て下さいと壮者のような元気で話をされた卓子の上で背広をぬいで実演された。こうした健康体操を毎朝つづければ良いがと会員の声もあった。たまたま上小支会総会の隣室で結婚式が挙げられており盛んに歌声が聞えてくると，隣りが景気をつけているので私が朝鮮で覚えた当時の歌を披露，これは健康と声の実演でわかわかしい美声に一同大拍手で講演が終った。さて懇親会となり初めに猪坂直一氏により健康を祝して乾杯に初まり宴は盛り上げられた。お互にさしつさされつ懇談，次々銚子が運ばれた。ほどよい時を見て小宮山太助氏の音頭で高らかに母校と千曲会上小支会万才を三唱して総会は盛会裡に終了した。 (白井要範記)



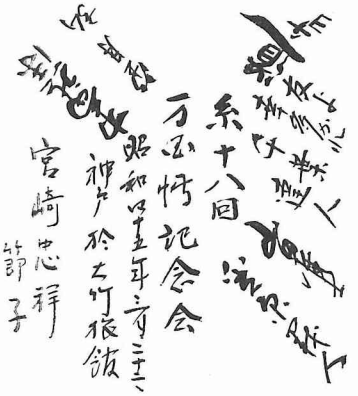
〝再び糸18回生に告ぐ〟

彼岸というと少し寒いが万国博も盛々開幕，連日大入り満員，同じ見るなら早いがよかろうと万博記念と銘打って3月22日同級会を神戸に開く。会するもの6名，何年振りかの気楽な学友だけに過去半生の出来事に話はつきなく，家族を含めたのも今回が始めて。

電話して来るもの，手紙に細々と書き託するもの，ひとしく出席出来ざるをなげき残念がっていることを想えば会するものの一層の幸福感にむしろ感激すら覚える。静岡の山田良人兄の発案もあり，来る46年は卒業40周年記念で盛大な同級会を開催せよとのこと，何れ早い目に計画したいものと考えるが今から再会を喜ぶと共に，よりよき案を至急当方に連絡いただきたい。

子供も既に成人し孫をも数えることになると話も限りなく広がり紙面に書き尽されない。取敢えず出席者を紹介すれば，宮崎忠祥兄は大地主，大家主

それに若い奥様で予想外の元気で学生時代と少しも変りなし，信越電線の笠原義人兄は地についた社長振り今後の健闘が大きく期待される。建材会社を自ら経営する山田保士兄は昔のままの豪放磊落，殊に応召中の想い出話は今回の話題をさらいきった感じだ。白髪好紳士の中島態保兄と人徳愈々さえ往年の人柄をそのまま笑顔に，望月弘兄は退官事は鐘織に再奉公，子供は夫々独立完了し新築の我が家は春と云う所である。



出席予定者では，荻原先生の公務上止むを得ずの欠席で残念至極，鈴木玄九兄には北ベトナム国の招きに応じ急遽3月12日に第2回目の出発，蚕糸業開発の大使命に希望は大きい。井野正夫兄の欠席は長らく東京勤務が急に大阪へ栄転の朗報に変ず。

各位の電話や通信による連絡事項は出席者を大いに喜ばしめたが，紙上紹介は膨大となるため残念ながら省略せざるを得ない。只ここにお知らせしなければならないのは山形の長谷川弘平兄の訃報である。奥様の長文のお便りに涙し，合掌，冥福を祈り心ばかりの香資をおくる。以上簡単なるも会合の様子を連想いただくことにし，各位の健康と多幸を念じ，来るべき再会を夢みて筆をおく。　(千葉記)

筆者千葉兄は神戸生糸の常務取締役例によって明るい元気のかたまり，彼のあるところ常に春風が漂う…笠原記

本部だより

常務理事会開催　1月26日常務理事会を開催，出席は小林運美理事長，母袋，北条の両副理事長，山口顧問，和田，香山両相談役，関，竹内，小林尚小山，土屋，松沢，白井，田中茂光の各理事で，(1)総会で理事会に1任された事項傭人の採用促進について，(2)支会組織の強化と支会の連絡強化について，(3)学部管理棟の新設に伴う旧本館の利用について，(4)その他について協議した。

支会幹部と懇談　3月16日本部から北条舒正副理事長，小林尚一，白井要範，田中一行で小諸市において北佐久支会長大山融，小山俊吾，山崎保太の各氏と支会の組織と連絡強化，会費納入率向上について懇談をした。午後は南佐久支会長阿部丈夫，前島正直，樫山幹男各氏と佐久市にて懇談した。また3月27日更埴支会長鷹野貞雄，清水勝郎両氏と篠ノ井にて同様の懇談をし県内地元支会の会費納入率を80%まであげるよう協力がた依頼した。

窪田巌氏(蚕19)海外視察より帰国　窪田（旧姓町野）巌氏は旧臘2日羽田発ブラジル視察中のところ欧州，アフリカも視察，香港経由で3月25日無事帰国した。目的はブラジルで建設業をしている実兄を訪ね36年振りの再会と海外視察で，特にブラジルでは学生時代鍛えた剣道（現6段）の腕前で彼の地で剣道指道をされた。

山崎寿博士(蚕14)日本農村医学研究所でビールス研究　山崎寿氏は，日本農村医学研究所所長若月俊一医学博士（佐久総合病院長）の懇請により同研究所嘱託として勤務し新設の電子顕微鏡を主力にビールス研究に本格的に取り組むことになり成果が期待されている。

母袋忠右衛門氏（蚕23）海外視察　母袋忠右衛門氏（長野県議会議員・本会副理事長）は長野県議会より選ばれ都市，社会福祉問題等の視察のため5月7日羽田出発ソビエト，ポーランド，チエコ，東西ドイツ，デンマーク，オランダ，フランス，イギリス，イタリー，香港等を応訪し，6月5日羽田帰国予定である。5月6日上田駅出発にあたり関理事初め千曲会員等多数歓送した。母袋氏から千曲会員に宜しくと伝言があった。

支会開催だより　4月18日，神奈川支会総会，箱根宮ノ下保養所で開催。4月24日，安筑支会総会，松本市で開催。5月17日，愛知支会総会，知立町で開催。5月23日，福島支会総会，福島市飯坂町で開催。5月24日，三丹支会総会，綾部市で開催。

宮島とよ子さん千曲会事務局に　千曲会事務局に一名補充は総会で決定していたが，この度繊維学部図書分館に永年勤務の宮島とよ子さんが退官したので4月1日から千曲会の事務をお願いすることになった。

千曲会費完納会員

会費通算40回完納した会員は次のとおりです。多年本会向上発展にご協力いただき感謝いたします。なお40回完納会員は以後会費免除となります。

立岩　笑保	蚕3（T5）	兵庫
天野　末治	蚕9（T11）	愛知
井上兵一郎	蚕12（T14）	山形
岡崎　勘助	蚕16（S4）	山形
市瀬　武寿	蚕21（S9）	竜川
長谷川恒三	糸20（S8）	山形
稲垣文一郎	糸23（S11）	愛知
鈴木　竹男	紡26（S22）	愛知
坂本　政雄	紡7（S3）	愛知

矢木博先生退官記念事会募金

謹啓　時下ますますご清祥のおん事とお慶び申し上げます。

さて信州大学繊維学部教授矢木博先生には，本年3月末日をもって停年退官されることになりました。

先生は昭和3年3月九州帝国大学農学部農芸化学科をご卒業後直ちに農林省西ケ原事試験場に入られ，肥料分析にご努力を傾倒され，昭和20年9月日本農業研究所にご転出，終戦後の肥料不足対策として国内の自給肥料，新資源の開発に，また開拓地酸性土壌の改良に献身的努力をされ，昭和25年7月横浜国立大学教授を経て昭和28年7月信州大学教授にご転任になり，その間教育者の養成や土壌の改良，新肥料の開発に貢献されました。一方長野県公害審議会委員として工場廃水の新処理法などを発明され，斯界の発展と繊維農学の進展に努力されて大きな功績を挙げられました。

今回先生の退官を迎えるに当り，長年にわたるご指導に感謝の意を表わすため関係有志者により左記のごとく記念事業会を計画いたしました。つきましては諸事ご多忙の折柄恐縮ですがこの趣旨にご賛同下さいましてご協力いただきたく存じますのでよろしくお願い申し上げます。

矢木博先生退官記念事業会

記

1. 記念事業
   内容は実行委員にご一任下さい。
1. 醵金要領
   金　　額　一口（500円）以上
   払込期日　昭和45年8月末日まで
   払 込 先　長野県上田市常入500信州大学繊維学部
   社団法人　千曲会内
   矢木博先生退官記念事業会
   振込方法　振替 長野 6243（千曲会）

皆様の百貨店
上田・中央 ほてりや

山口定次郎先生退官記念品募金

謹啓　時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて信州大学教授山口定次郎先生には昭和45年3月末日をもちまして定年で退官なされることになりました。

先生は大正14年に上田蚕糸専門学校蚕糸科第12回生としてご卒業になり，爾来45年の間，一貫して母校に勤務され，研究，教育に献身的な努力を注がれましたことは皆様方もよく御存じのところであります。この間，昭和19年に上田蚕糸専門学校教授，昭和24年学制改革に伴い信州大学繊維学部となって後，同32年に教授に任ぜられ蚕糸学の研究ならびに学生の指導にいよいよ精励されて参りました。

先生は研究者としては旺盛なる研究心と豊富なご経験とによって蚕の生理，生態，蚕卵生理ならびに最近は家蚕における栄養生理病理に関する，幾多の研究業績を発表されておりますが，特に「家蚕消化器官の局所機能分化に関する研究」により農学博士を得，また本年4月には栄ある日本蚕糸学賞を受賞されることになりました。さらに学会にあっては，日本蚕糸学会評議員・理事，また蚕糸学会中部支部長としてとくに本春は蚕糸学会全国大会を母蚕繊維学部に迎え開催し，その運営委員長となるなど長年学会の発展に寄与され，一方，農林省蚕糸（蚕種）審議委員，長野県農業士認定委員などを歴任され，ひろく蚕糸業界および農業振興の為に尽力されました。

教育者としては柔和温容のうちにも厳格な指導をなされ，そのご薫陶によって優秀な研究者，技術者を数多く世に送り出されました。また，千曲会にあっては長年理事，理事長，顧問を歴任され，母校ならびに卒業生発展のため陰に陽にご尽力なさいました。このような先生の業績は，敬虔なクリスチャンとしてのお人柄によって達せられたものでありまして，私共一同畏敬の念を禁じ得ません。

このたび，先生の退官にさいして，永年にわたるご功績とご人徳をたたえるとともに日頃のご懇情に報いるため別記のように記念事業を計画いたしました。つきましては，この趣意にご賛同下され，格別のご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

山口定次郎先生退官記念事業会発起人一同

記

1. 記念事業　内容は実行委員にご一任下さい。
1. 醵 金 額　一口（500円）以上
1. 応募期間　昭和45年8月末まで
1. 払 込 先　長野県上田市常入500信州大学繊維学部
   社団法人千曲会内山口定次郎先生退官
   記念事業会（振替長野6243）

会　員　動　静

非立喜三郎　糸　13（T15）（住）横浜市神奈川区片倉台団地3—9—301

西田勇三郎　糸　16（S4）（住）東京都杉並区成田東3—31—16

斉藤　監　糸　16（S4）兵庫県多紀郡篠山町丸山61

角田　勝郎　糸　20（S8）三菱レイヨンKK常務取締役（東京都中央区京橋2—8）

菅原　吉隆　糸　23（S11）宮城県農政部蚕糸課（住）仙台市旬当台通り

寺崎　喜美　糸　23（S11）（住）栃木県小山市大字犬塚谷向830

松山仁一郎　糸　34（S22）人材開発研究所経営コンサンタント所長（住）埼玉県川越市旭町1—24—8

井上　忠雄　糸　34（S22）川崎市立南加瀬中学校教頭（住）横浜市港南区笹下町2612

浜　正和　糸　36（S24）東京消費者センター立川支所（東京都立川市曙町2—13立川三菱ビル5階（住）小平市たかの台1390—3

林　茂　糸　36（S24）自衛隊長野地方連絡部（住）長野市篠ノ井西組1318

吉野　史郎　学糸1（S28）片倉富士紡ローソンKK（松本市中央4—9—53）

土屋　昌生　学糸2（S29）日精電機KK信州工場（長野県佐久市根々井）（住）小諸市六唐松甲1505

馬場　昭　学糸2（S29）片倉工業KKモーター事業所（大宮市吉敷町4—237）

宮坂　武雄　学糸5（S32）長野県信用組合小諸支店（小諸市赤坂町784）

兎束　伴之　学糸8（S35）野村KK東京支店（東京都中央区日本橋橋町15第2北海ビル）（住）千葉県松戸市三矢小台5—9野村㈱松戸社宅

植松　武光　学糸8（S35）勤前の通り（住）横浜市港南区笹下町74笹下台団地1街区12—401

荻久保新吾　機　1（S40）東洋繊維KK尾道工場（尾道市天満町17—23）（住）尾道市潮見町6—9

佐野　寛　機　1（S40）プラザー工業KK（住）名古屋市緑区鳴海町字篠ノ風3—105

赤司　達　機　2（S41）アイシン精機KK技術開発研究所（愛知県豊田市高丘新町天王1

伊東　照紀　機　3（S42）東洋機械KK（大阪市東淀川区瑞光通5—29）

高島　泰行　機　3（S42）同和工業KK（大阪市北区堂島中1—23堂島中町ビル5階）

金田　健男　機　3（S42）島根県立江津工業高等学校（江津市和木307）

田上　研二　機　5（S44）広島硝子工業KK（大阪府高槻市芝生町1—52—2）

森下　昭夫　機　5（S44）KK山崎鉄工所（愛知県丹羽市大口町字小口）

別府　庸夫　化工（大学院）（S44）千代田化工建設KK（横浜鶴見区鶴見町1580）（住）川崎市生田土淵耕地883千代田化工建設KK中野島寮

山内　隆夫　化工（大学院）（S44）東邦化学工業KK技術研究所石油化学研究室化学工学課（横須賀市浦郷町5—2931（住）横須賀市追浜町2—45東邦寮

名取　栄男　蚕別2（S28）亀山製糸KK埼玉出張所長（東松山市若松町1—18—30）

田村　昌三　糸別3（S29）松筑地方事務所蚕糸課（松本市旭町）

杉本　広助　紡　専（S22）勤前の通り（住）愛媛県江南市藤ケ丘7—1—1江南分譲団地202—502

水口　米雄　蚕　28（S15）松筑地方事務所長（松本市鷹匠町）

中村　盛一　蚕　32（S19）長野県農政部蚕糸課（長野市南長野山下）

山内　一次　蚕　23（S11）長岡蚕業指導所長（新潟県長岡市学校町3）（住）長岡市高畑町1

広瀬　洋　蚕　32（S19）北佐久蚕業指導所長（佐久市岩村田1201）

田爪　正記　糸　30（S17）槻本小中学校校長（熊本県球摩郡多良木町槻木）

西沢　芳智　農　2（S23）長野県上田高等学校（上田市大手町）

会員訃報　下記会員が死亡されました。謹んで哀悼の意を捧げご冥福をお祈り申し上げます。

内田　浩　旧職賛助員　S44.10.18　御逝去
嗣子　貞夫　上田市常入信大繊維学部機械学科

野崎　清　蚕　4　S44.11.16　御逝去
東京都杉並区荻窪町1—168

福島　虎　紡　16　S45.1.9　御逝去
妻　清子　愛知県葉栗郡木曾川町黒田字南新開1—1

佐藤　利一　旧職賛助員　S45.1.22　御逝去
妻　その　上田市上紺屋町3553

石坂虎治郎　糸　5　S45.1.30　御逝去
妻　初江　大阪府吹田市山田下1243

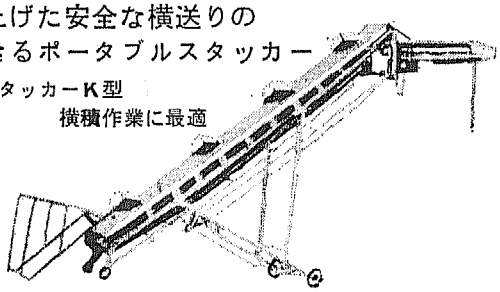
松野　正一　蚕　1　S45.3.18　御逝去
嗣子　喬木　神奈川県厚木市厚木793

作業の能率アップに活躍する・・・・・

マルヤスの各種コンベヤー

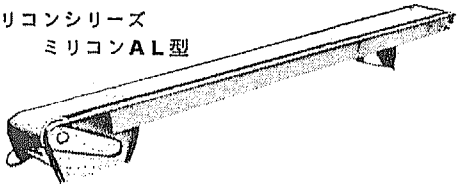
積上げた安全な横送りの
できるポータブルスタッカー

■スタッカーK型
横積作業に最適



拼上で軽く移動できる総アルミ製
ベルトコンベヤー

■ミリコンシリーズ
ミリコンAL型



豊富な機種
●ローラーコンベヤー
●横送り付ミリコン
●府仰脚付ミリコン
ポータブルスタッカー

MARUYASU マルヤス機械株式会社

取締役社長 林 清 市

本 社 東京都中央区京橋3の2(片倉ビル) ☎03(281)3631㈹
岡谷工場 長野県岡谷市成田町2—11—6 ☎02662(2)7125㈹

強力オキソ・レヂン糖衣錠

優秀発明賞・紫綬褒章に輝く
小湊潔博士(糸4回、理研化学工業株式会社取締役社長)の発明

特 長
1. 長期間常用しても体臭・口臭・便臭をともなわない。
2. 著しく食欲を増し体重を増加する
3. 便通を整え、常習性下痢を医す
4. 抗病性を増す
5. 体力増強・末梢血管の拡張等によって保温作用があるので常用すると冷え症によい

適応症 食欲増進、虚弱体質、盗汗、腺病質、疲労回復、産婦人栄養、更年期障害、神経痛、アレルギー疾患

理研化学工業株式会社

本 社 京都市左京区下鴨萩ケ垣内町15
電 話 (781) 0433番
伏見工場 京都市伏見区深草向川原町48
電話(641)5306(代表)～9番
東京連絡所 東京都港区南麻布4丁目13番9号
電話(444)0721(代表)～4番

販売元 岩城薬品株式会社
大阪市東区伏見町三丁目二十六番地
イワキ株式会社
東京都中央区日本橋本町4丁目1番地

会員名簿お求め下さい

千曲会員名簿発行についてはご高配を賜わり厚く御礼申し上げます。名簿の残部がありますから会員1冊は必ずお求めご利用下さい。

1冊 500円(送料を含む)
但し千曲会窓口渡しの場合は1冊400円
体裁 B5版 539頁 横組式 卒年別 支会別

社団法人 千曲会動静部

編 集 後 記

若葉かおる季節となりました。会員の皆様にはますますご清栄にてお過しのことと拝察いたしております。

同窓会の各支会とも活発な活動をされておられ，何よりお喜び申し上げます。学園も新しい卒業生を各支会に送り，若さ溢れる新入生を迎えて張り切っております。静かな学園には，管理共通棟の建設の音が響きわたっております。

会員各位のご発展を心からお祈りいたします。

会報の原稿をどしどしお寄せ下さいますようお願い申し上げます。

編集委員 竹田 寛，篠原 昭，竹内 善吾
中沢 賢，平林 潔，小笠原真次，山本万寿夫
白井 汪芳，小林 俊一，白井 要範